

困難を抱える子どもへの動物介在活動による支援事業  
～長野県動物愛護センターの取り組み～

浦野絵梨<sup>1)</sup>， 續木奏絵<sup>1)</sup>， 松澤淑美<sup>2)</sup>， 坂本 淳<sup>1)</sup>， 黒岩和雄<sup>3)</sup>

- 1) 長野県動物愛護センター「ハローアニマル」， 2) 長野県諏訪保健福祉事務所，  
3) 長野県長野食肉衛生検査所

はじめに

長野県動物愛護センター（以下、「ハローアニマル」）では2000年の開設以来、「ハローアニマル子どもサポート」（以下、「子どもサポート」）として、不登校や教室以外の場所で過ごす子どもを対象に動物介在活動により支援する事業を行ってきた。2018年度より当該事業が、長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」

の中で、自殺対策強化の施策のひとつとして位置付けられたことから、「子どもサポート」を全県下に展開させることを目標に、「おでかけハローアニマル子どもサポート」（以下、「おでかけ」）が新しくスタートした。

今回、「子どもサポート」対象者等に対するアンケート調査およびストレスの指標となる唾液アマラーゼ測定を実施したのでその結果を報告する。併せて「おでかけ」の実施状況を報告する。

## 実施状況

「子どもサポート」では、動物たちとのふれあいや世話をしながら、対象者に応じた時間を過ごすことを目的とし、その居場所を提供した。毎月1回1時間、個別に動物のふれあいを主体とした独自のプログラム「子どもサポートプログラム」(以下、「プログラム」)を実施した。プログラムは、子どもの状況や意向に合わせ、期待される目的別に4つの活動ステージで構成した。ステージ1は、動物と一緒に過ごし、ふれあうことにより緊張を緩和することを目標とした。ステージ2は子猫の社会化や動物の世話を通して自己有用感を高めることを目標とした。ステージ3は犬のトレーニング等を行いながら責任感や信頼感を育て、ステージ4はボランティア活動等により社会参加を目標とした。実施にあたっては、教育関係機関や保護者からの依頼により子どもの受け入れを開始した。プログラム実施中は、毎回の活動状況を保護者および依頼機関へ報告し、必要に応じて、医療や福祉などの専門機関に繋げた。

アンケート調査は、対象者、保護者、支援者を対象に2019年1月に実施した。唾液アミラーゼ測定は対象者41名に十分な説明をし、同意が得られた21名に対して毎回実施した。

「おでかけ」は、心療内科医による子どもの発達心理とカウンセリングについて学ぶセミナーの開催に併せ、動物とのふれあいを毎月県下4会場で実施した。2018年度「おでかけ」の参加人数はのべ767名であった。

## 結 果

2018年度から、子どもサポート専門の臨時職員として動物介在活動コーディネーターが配置されたことにより、従来、対象者の受入れは年間平均28名であったが、41名まで増やして対応できた。家居であった子どもが全員「子どもサポート」に参加できるようになった。

アンケート調査結果では、子どもは「子どもサポート」を好意的に受け止めていた。保護者と支援者からは

「子どもに自信と自己有用感が芽生えた」との回答があった。さらに「子どもの良いところに気づけた、新しい見方ができた」など、保護者や支援者からの子どもの見方が変化したとの記述もあった。唾液アミラーゼ測定結果では、参加5回目以降で測定値が減少する傾向にあった。5回目とは、プログラムステージ2のことである。回を重ねるたびに子どもはハローアニマルの環境に慣れ、緊張せずに動物と過ごすことができ、誰かの役に立つ経験をすることで、子どもの自己有用感が高まったためと考えられた。唾液アミラーゼはその場ですぐに測定結果を可視的に確認することができるので、子どもが客観的に自分を振り返ることも有用であった。

「おでかけ」のセミナーは各会場とも20名から30名が熱心に受講し、動物とのふれあいはどの会場も笑顔があふれた。「おでかけ」によって、遠隔地へもハローアニマルのPRができ、動物介在活動による支援事業を発信することができた。「おでかけ」をきっかけに、新たに5名が「子どもサポート」に通うようになった。

長野県では、ニートやひきこもり等の社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者を支援するため、「長野県子ども・若者サポートネット」を県下4カ所に設置し多職種間で連携しての取り組みが始められている。ハローアニマルもその構成機関の一つとなっており、長野県子ども・若者サポートネットを通して支援機関同士が連携しながら効果的に支援を行っている。

## ま と め

「子どもサポート」は事業開始以来、独自のプログラム作成やストレス評価を導入し、困難を抱える子どもへの動物介在活動による支援事業として定着した。また、「おでかけ」は、全県下での動物介在活動による支援事業を普及啓発するきっかけとなった。ハローアニマルの動物は、困難を抱える子どもを支援する地域資源のひとつである。今後もハローアニマルの動物を活用し、医療、福祉、教育などの関係機関と連携し、社会貢献に寄与したい。